

【環境園芸学科】

表 アンケート平均値の推移（環境園芸学科授業全体）

設問番号	H22年度		H23年度		H24年度	
	前期	後期	前期	後期	前期	後期
①	4.48	4.38	4.37	4.24	4.28	4.24
②	2.67	2.81	2.66	3.05	2.79	2.95
③	3.19	3.32	3.23	3.44	3.35	3.45
④	4.08	4.21	4.05	4.18	4.18	4.18
⑤	3.82	3.97	3.94	4.10	4.02	4.02
⑥	4.25	4.33	4.26	4.35	4.40	4.32
⑦	3.98	4.14	3.99	4.21	4.11	4.15
⑧	4.30	4.40	4.36	4.37	4.40	4.40
⑨	3.56	3.76	3.65	3.85	3.78	3.83
⑩	3.86	3.99	3.98	4.04	4.06	4.05
⑪	3.77	3.97	3.90	4.03	4.01	4.01

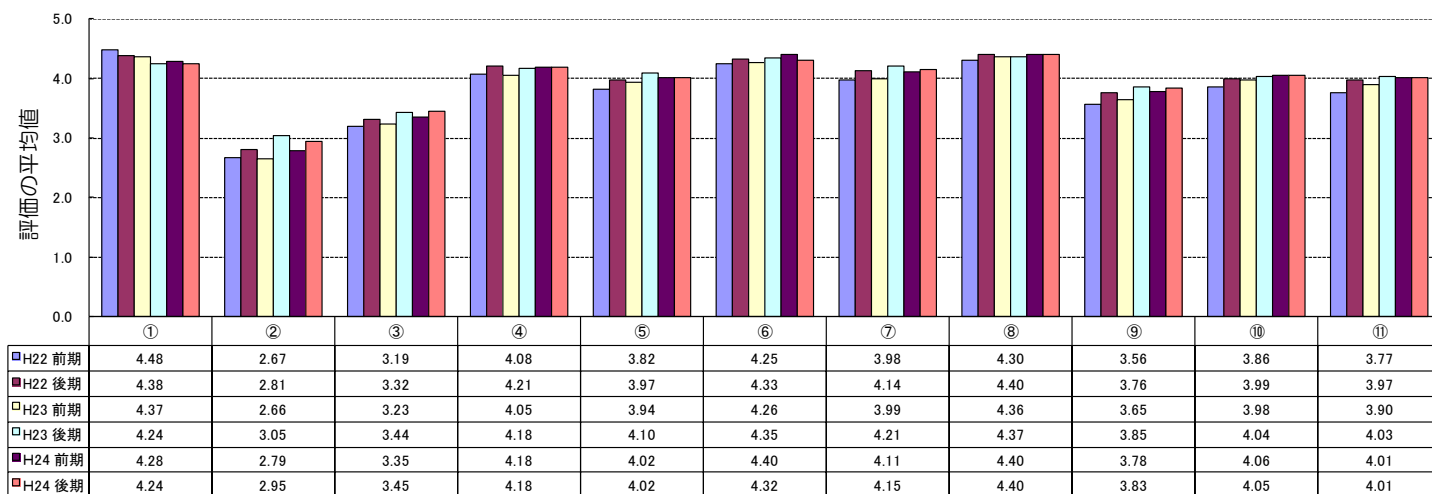


図 アンケート平均値の推移（環境園芸学科授業全体）

<<前期>>

1) 全体について

- ・昨年度の平均値と比して、顕著な値の変化は見られないが、設問1)を除いては、いずれの項目も年々改善傾向にあることが窺え、アンケート実施および評価分析に伴う各教員の授業改善の取り組みにより効果が現れていると思われる。
- ・設問1)についてはむしろ年を追うごとに低下傾向にあり、このことは出席率が低下していることを示

し、設問2)の授業中の質問や発言、設問3)の積極的取り組みにおいて、どちらともいえないという回答にピークがあることに現れていると思われる。

・他の設問に比べ、今回の結果でも設問2)および3)のポイントが特に低い。受講生の授業への積極的参加を促すよう、各科目ごとに授業の特色に合わせて各教員が授業改善報告書にまとめたような具体的改善策を講じることや、各教員のやり方・考え方などを学科内で紹介するなど今後も情報交換を続けていくことが望まれる。

## 2)各設問について

・設問 1. 81%の学生が「4、5」つまり授業によくまたは比較的出席していると回答しているが、およそ 2 割の学生が「1、2、3」よく出席したとは考えていない。今後はこの値を下げるような取り組みが望まれる。

・設問2. 少人数でのゼミとは違い、受講生の多数の講義では質問や発言しにくい部分があると思われる。講義終了後に質問される場合も多くみられることから、講義終了後の質問についても設問に記載しても良いと考える。

・設問3. 回答の「3 どちらともいえない」を含めると約半数の学生が積極的に取り組んでいないと回答している。各科目の位置づけを明確にし、特色に合わせて自発的な参加意欲を高めるような具体的方策が望まれる。

・設問4. 1割弱が「1、2」つまり教員の声が聞き取り難いと回答している。マイクの使用や教室の変更などの各教員の対応で改善可能と思われる。

・設問5. 1割弱が「1、2」つまり教員の板書等は見づらいと回答している。設問4と同様にプレゼンテーション方法や質の工夫など、各教員の対応で改善可能と思われる。

・設問6. 比較的授業時間は守られていると判断されている。継続が望まれる。

・設問7. 不満を抱いている学生は約5%で、概ね良好であると考えられる。現在の状況を維持しつつも学生の理解度や意見を吸い上げる工夫が望まれる。

・設問8. 各教員が熱意を持って授業に取り組んでいると判断される。継続が望まれる。

・設問9. 「5」つまり授業を非常によく理解できた回答しているのは約 22%であり、多くの学生が自信をもってよく理解できたとは言えない状況にある。設問2)および3)の結果を合わせ考えると、学生の取り組み姿勢といった根本的な課題とも考えられる。今後の継続的な分析と取り組みが望まれる。

・設問10. 徐々にではあるが、每期ごと評価ポイントが上がっており、授業改善の効果が認められているのではないか。おおむね良好であるが、約4%の学生は不満を抱いているのも見逃せない。

・設問11. おおむね良好と思われるが、「5」の割合は約 35%であった。この評価が学生の授業に対する総合的な判断であり、多くの学生において絶対的な満足感が得られているわけではない。学生の授業に対する積極的な取り組み(設問3))や理解度を向上させる(設問9))ことも総合評価の改善に結びつくと考えられる。これまで2年間の結果から評価の飛躍的な向上は難しいと考えられるが、徐々に改善は見られていると判断される。半期ごとに行われている各設問の評価の分析とその

結果をもとにした各教員および学科の地道な改善努力の継続が重要であると考えられる。

## <<後期>>

### 1)全体について 表 アンケート平均値の推移（環境園芸学科授業全体）

・昨年度の平均値と比して、ポイントは4項目で増、3項目で減、4項目で同ポイントとなっているが、顕著な値の変化は見られない。授業評価開始年度からみると改善されたものが維持傾向にあることが窺え、アンケート実施および評価分析に伴う各教員の授業改善の取り組みが定着しつつあると思われる。

### 2)各設問について

・設問1. 前回(H24年度前期)の結果以外、低下傾向にあり、このことは出席率が低下していることを示している。授業評価アンケートの結果も併せ各教員は授業改善に努めているが、1/4の学生が「1、2、3」よく出席したとは考えていない。学生の取り組み姿勢の改善を図り、今後はこの値を下げるような取り組みが望まれる。

・設問2. 他の設問と比べ、以前ポイントが低い。少人数でのゼミとは違い、受講生の多数の講義では質問や発言しにくいこともその要因として考えられる。講義終了後に質問される場合も多くみられることから、講義終了後の質問についても設問に記載しても良いと考える。

・設問3. これまでの各期の結果の中では最も高いポイントだったが、全体として設問2に次いで低評価である。回答の「3 どちらともいえない」を含めると半数以上(54%)の学生が積極的に取り組んでいないと回答している。各科目の位置づけを第一回目の講義や専攻説明会、研究室配属説明会を通じて明確にし、特色に合わせて自発的な参加意欲を高めるような具体的方策が望まれる。学生に積極的に取り組む姿勢・必要性を授ける方策が必要であると考えられる。例えば、授業の前に定期的に小テストやレポートなどの実施、またその結果も本テストの成績に反映させることによって、学生が自ら取り組むことになるのではないかと考えられる。

・設問4. 「1、2」つまり教員の声が聞き取り難いとの回答が1割を切った。マイクの使用や教室の変更などの各教員の対応により改善が図られたものと考えられる。各授業において学生に声が聞こえているかを確認することにより、より改善がなされるものと思われる。

・設問5. 前期と同様に1割弱が「1、2」つまり教員の板書等は見づらいと回答している。プレゼンテーション方法や質の工夫など、各教員の対応で改善可能と思われる。

・設問6. 比較的授業時間は守られていると判断されている。継続が望まれる。

・設問7. 不満を抱いている学生は5%以下で、概ね良好であると考えられる。現在の状況を維持しつつも、授業中、学生に意見を聞いたり、問いかけをしたりするなど学生の理解度や意見を吸い上げる工夫が望まれる。

・設問8. 各教員が熱意を持って授業に取り組んでいると判断される。継続が望まれる。

・設問9. 「5」つまり授業を非常によく理解できた回答しているのは全体の1/4であり、多くの学生が

自信をもってよく理解できたとは言えない状況にある。設問2)および3)の結果を合わせ考えると、学生の取り組み姿勢といった根本的な課題とも考えられる。今後の継続的な分析と取り組みが望まれる。この設問3)の結果から、日頃、予習や復習しなくても受講できることが示され、また、この設問9)の結果から日頃の授業は理解できなくても受講できる状態となっていることが示唆される。日頃の小テストなどの実施によって学生がどこまで理解できたかを随時把握できることにも繋がる。今後、大いに検討すべき課題であると思われる。

・設問10. 前回までは徐々にではあるが、每期ごと評価ポイントが上がっており、今期は前期と同等のポイントで、授業改善が継続維持されているものと思われる。ただし、「3」のどちらともいえない、を含めるとおよそ 1/3 の学生に将来役に立つと認識されていない。設問9)と同じく学生の取り組み姿勢についての課題もあると思われるが、科目の意義や位置づけ、特色の理解を深めることが改善に結びつくと思われる。

・設問11. おおむね良好と思われるが、「5」の割合は約 37%であった。この評価は他の全設問を通した総合的な評価であり、多くの学生において絶対的な満足感が得られているわけではない。これまでの授業評価結果をもとに各教員は各設問項目を中心に改善を図っているが、学生自信の授業に対する積極的な取組み(設問3))や理解度を向上させる(設問9))ことも総合評価の改善に結びつくと考えられる。これまでの結果から評価の飛躍的な向上は難しいと考えられるが、徐々に改善は見られていると判断される。半期ごとに行われている各設問の評価の分析とその結果をもとにした各教員および学科の地道な改善努力の継続が重要であると考えられる。